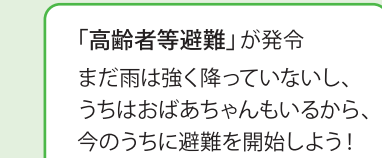
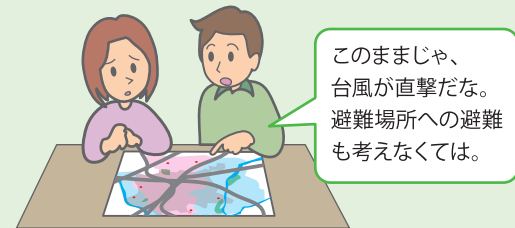


マイ・タイムラインを作ろう

台風のような風水害は、あらかじめ接近を予測できる災害です。災害の発生を前提に、災害時に発生する状況を想定し、「いつ」、「誰が」、「何をするか」を時系列に整理した「タイムライン」を事前に検討しておくことが大切です。「タイムライン」を作ることは、必要な情報とそれに応じた行動を時系列に整理することができるため、いざというときに余裕をもって対応することにつながります。

タイムラインの例 — ある家族の避難までの流れ —



台風発生



台風接近



台風直撃

行動のポイント

情報の収集

- テレビなどで天気予報を確認
- インターネットで気象情報を収集

身の回りの確認

- ハザードマップで自宅などの災害リスクや、避難場所、避難経路を確認
- 防災グッズや家族の必要なものを準備（不足があれば買出しへ）
- 家族全員の今後の予定を確認（遠出する予定がある場合はキャンセルも検討）

安全確保、避難準備

- 非常持出品の準備
- 自宅の浸水しそうな所には土のうを設置
- 家の周りの側溝の掃除
- 家の周りの風で飛ばされそうなものを片付ける
- 1階が浸水するおそれがある場合は家財を2階に上げる
- 携帯電話の充電

避難

- テレビ、インターネットで河川の水位情報や気象情報に注意
- 市からの避難情報に注意
- 浸水や土砂災害が想定されない場所の避難場所に避難を開始
- 夜間ではなく明るいうちに避難を開始

避難場所

- 避難場所に着いてからも、ラジオや携帯電話から情報を収集
- 雨が止んだからといってすぐに帰宅するのではなく、周囲や川の水位の情報に注意

避難行動判定フロー

実際に災害が近づくと、なかなか決断がつかずに避難のタイミングをのがすケースが多くあります。「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクといざという時にとるべき行動を平時から確認しましょう。

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。
家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難して下さい。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

浸水の危険があっても、
① 洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
② 浸水する深さよりも高いところにいる。
③ 浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
※土砂災害の危険があっても、頑丈なマンションなどの上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル3

が出たら、**安全な親戚・知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

警戒レベル3

が出たら、市が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう。

警戒レベル4

が出たら、**安全な親戚・知人宅に避難**しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

警戒レベル4

が出たら、市が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう。

※警戒レベルについては24ページをご確認ください。

POINT 新型コロナウイルス等感染症のリスクを踏まえた「避難」の検討

避難場所に行くことだけが避難ではありません。避難場所以外への避難（分散避難）も選択肢です。ハザードマップで自宅が洪水や土砂災害のおそれなく、自宅での安全確保が可能な場合は、必ずしも感染リスクを負ってまで避難場所へ行く必要はありません。また、安全な親戚や知人宅への避難やホテルなどを利用することも避難場所での3密を避けるうえで有効です。

情報収集の心得

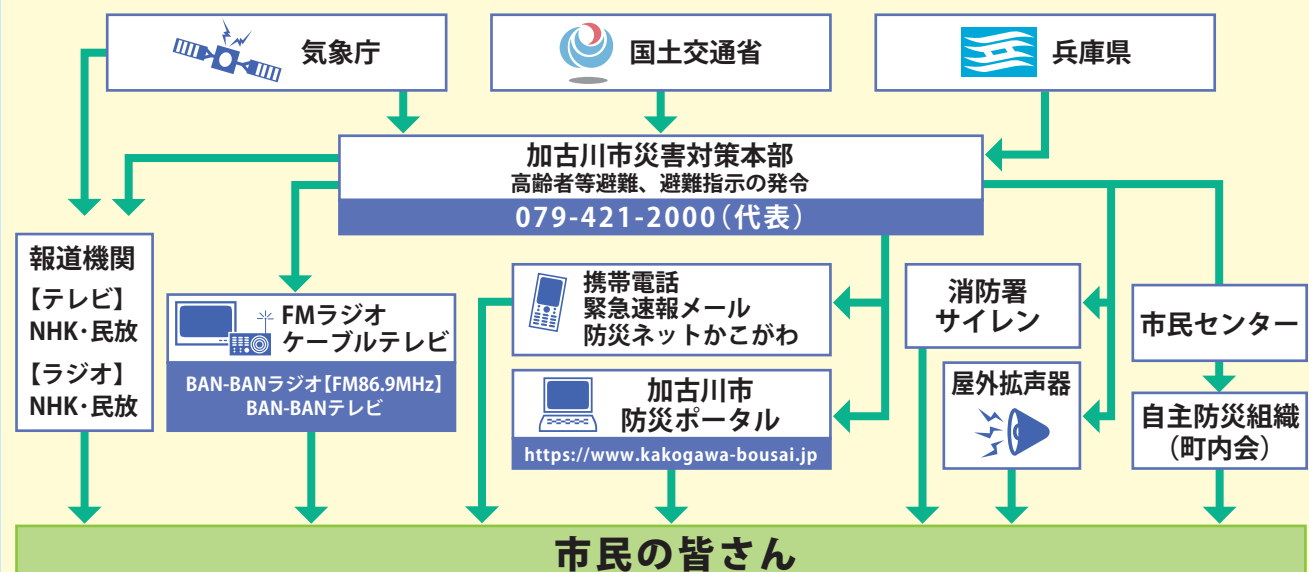
市は気象情報をもとに、災害情報や避難の呼びかけをしますが、市民一人ひとりが積極的に情報収集し、避難が必要な状況を確認し、考えて行動することが大切です。

いろいろな情報収集の方法

大雨時は、自ら情報収集する意識が大切です。台風などの接近は数日前から予測することができるので、事前に情報収集することで、災害に対する備えをしましょう。



災害情報伝達経路



スマートフォンやパソコンを活用しよう

スマートフォンやパソコンなどの普及により、これまでの災害教訓や緊急時に役立つ様々な防災情報が簡単に手に入るようになりました。これらを活用した情報収集手段を確認しましょう。

いろいろな情報収集手段を確認しよう

テレビのデータ放送で情報収集

災害時には地上デジタル放送テレビのデータ放送を通じて、兵庫県内の市町が避難情報（避難指示、避難場所開設）を発信しています。

- ①NHK 総合テレビにチャンネルを合わせ、リモコンの『d(データ放送)』ボタンを押す。
- ②リモコンで「防災・生活情報」に合わせ、『決定』を押す。
- ③「河川水位・雨量」や「警報・注意報」など確認したい項目に合わせ、『決定』を押す。



ラジオで情報収集

情報収集の手段の一つとして、ラジオが挙げられます。小型ラジオなどを持ち歩くのが一番確実ですが、スマートフォンならアプリを利用してラジオを聴くこともできます。



ワンセグ・フルセグテレビで情報収集

お使いの携帯電話・スマートフォンにワンセグ・フルセグテレビを受信できる機能があれば、停電でテレビが見ることができない場合でも情報収集ができます。



インターネットで情報収集

加古川市をはじめ、兵庫県や国の各機関では、インターネットを通じて様々な防災情報を発信しています。
(国、県、加古川市の発信する防災情報→79ページ)



SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

LINEやFacebookなどのSNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) は、インターネットを通じてコミュニケーションができるサービスです。情報交換や安否確認の手段として活用することができます。



安易な情報に惑わされない

災害発生の危険性が高まっているとき、または災害が発生したときには、市役所や消防・警察・テレビ・ラジオなどの正しい情報を入手し、デマに惑わされないようにしましょう。



スマートフォンアプリを活用した情報入手

スマートフォンアプリの中には、様々な災害に関する情報をいち早くお知らせしてくれるアプリがあります。



NHK ニュース・防災

- 最新ニュースや災害情報をいち早くお届け。
- 速報や災害・避難情報をプッシュ通知でも。
- マップ上で雨雲や台風、河川情報をチェック。
- 災害時などにはライブの放送同時提供も。



Yahoo! 防災速報

- 緊急地震速報や豪雨予報をはじめ、様々な災害情報をプッシュ通知でいち早くお知らせします。
- 現在地と国内最大3地点に通知可能。移動中や旅行中も安心です。
- アプリ画面上で、現在地や登録した地域ごとに最新の災害情報のほか、災害の種類ごとの避難場所を確認できます。



避難時の心得・注意点

避難指示が発令されたら、速やかに危険な場所から避難しましょう。

過去の災害では、避難途中で災害に巻き込まれ犠牲になられた方もいます。情報と現状をもとに自らが判断し、早めの避難を心がけましょう。

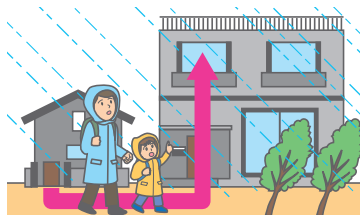
いろいろな避難の方法

立退き避難



気象情報や防災情報をもとに、早めの避難を心がけましょう。避難場所だけでなく、安全な親戚・知人宅も避難先と考えられます。

近隣の安全な場所への避難



大雨や強風などにより、長距離の移動が危険をとまなう場合には、避難場所にこだわらず、「近隣の安全な場所」へ避難しましょう。

屋内の安全な場所への避難



最低限の避難行動として、建物の2階以上や、斜面とは反対側の部屋に移動して、安全を確保しましょう。

避難は、「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

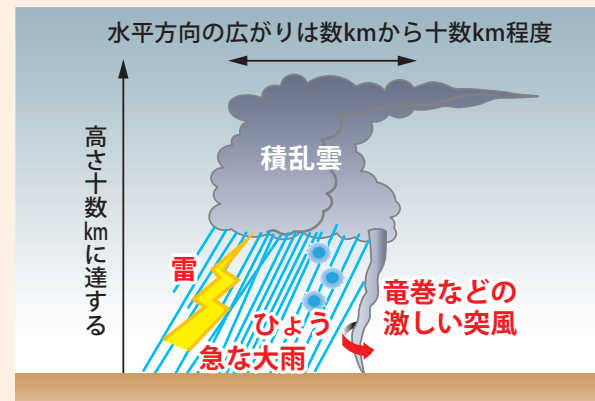
積乱雲(雷雲)に注意しましょう

大気の状態が不安定なときには、積乱雲(雷雲)が発達して、急に強い雨が降ったり、雷や竜巻が発生しやすくなります。

近年頻発している豪雨災害の原因とされる線状降水帯も、複数の発達した積乱雲の集合体と同じ場所を通過または停滞する気象現象です。

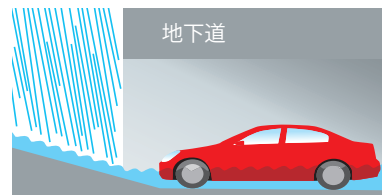
発達した積乱雲の近づく兆し

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- 大粒の雨や『ひょう』が降り出す



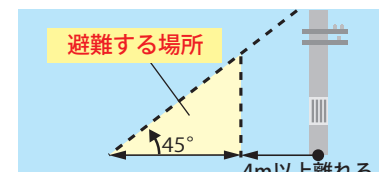
急な大雨に注意

- 1 すぐに水辺から離れる
- 2 浸水した場所に注意する
- 3 地下道は、特に注意する



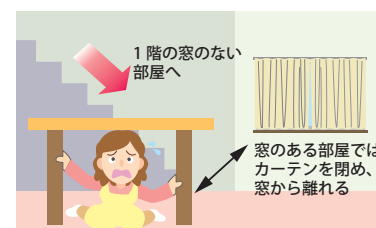
雷に注意

- 1 雷鳴が聞こえたらすぐ避難する
- 2 建物や自動車の中へ避難する
- 3 木や電柱から4m以上離れ、姿勢を低くする



竜巻に注意

- 1 頑丈な建物の中へ避難する
- 2 屋内でも窓や壁から離れる



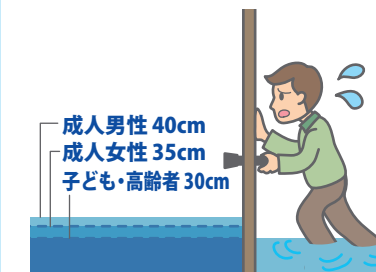
浸水が始まる前の早めの避難行動を

浸水が始まると、水深が浅くても移動することが困難になります。気象情報や河川の水位情報をもとに、身の危険を感じたら直ちに避難しましょう。車の移動も故障や渋滞に巻き込まれるおそれがあるため、徒歩での移動を心がけましょう。

歩行が困難になる浸水の深さ

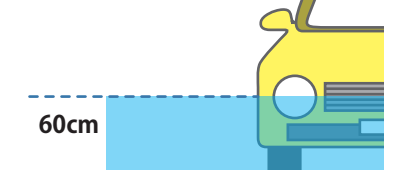


ドアが開かなくなる浸水の深さ



車が止まってしまう浸水の深さ

車種によってはタイヤの半分くらいでエンジンが止まることもあります。



立退き避難の注意点

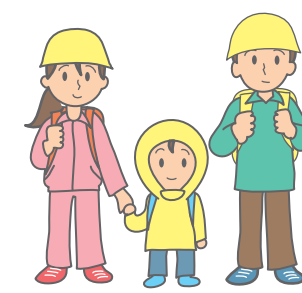
避難するときは、隣近所で声を掛け合い、なるべく複数人で避難するようにしてください。危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩いてください。

移動は二人以上で、みんなで助け合って避難を



一人だと、いざという時に助け合えません。避難するときは隣近所のお年寄りや障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。

避難は動きやすい服装で



長靴やサンダルは危険です。運動靴をはき、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて避難しましょう。

夜間の避難は要注意！



夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。

危険な場所には近づかない



地下道や地下空間、河川の近くは浸水の可能性が高く、危険です。また、斜面は崩れ落ちる危険があるので、近づかないようにしましょう。

流れのある場所には近づかない



ゆるやかな流れでも、ひざの高さになると大人でも歩くのが困難です。小さな河川や流れのある場所に近づかないようにしましょう。

浸水している場所には注意が必要



浸水している場所は茶色く濁っており、水路と道路の境や側溝、ふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認するなど、注意しながら移動しましょう。

防災気象情報を確認する

気象庁では、災害に結びつくような激しい気象現象が予想される場合、気象警報・注意報などの防災気象情報を発表し、テレビ・ラジオ・インターネットなどを通じてお知らせしています。

下表の防災気象情報が発表されたら、キキクルで状況を確認し、自宅に迫る危険度を把握しましょう。

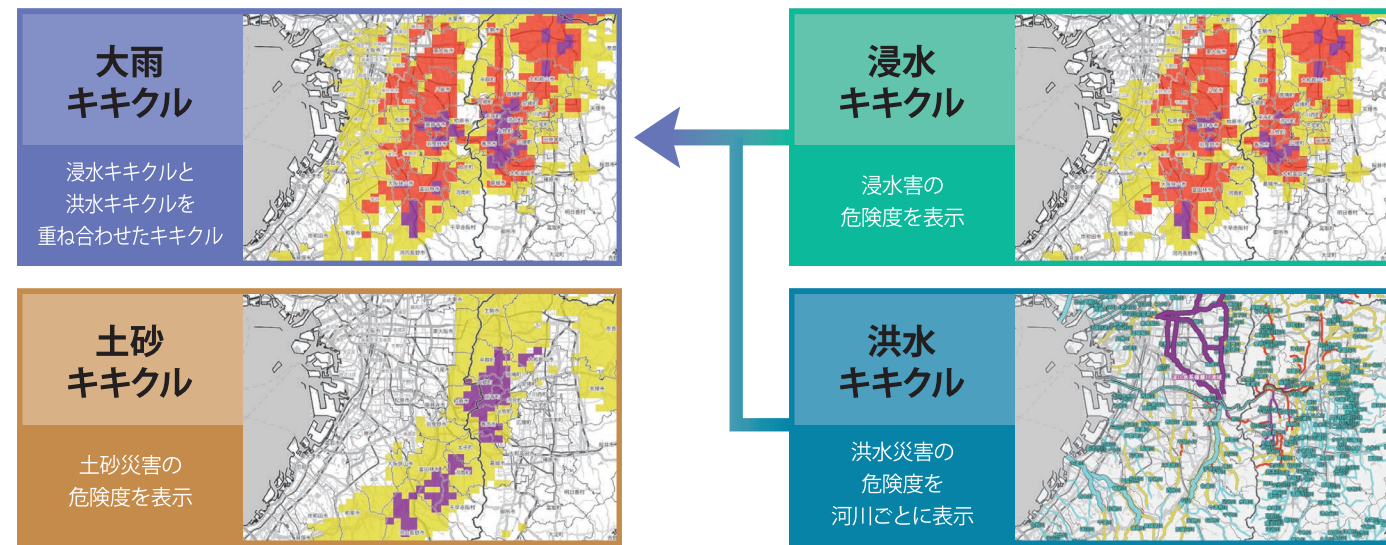
警戒レベルに対応した気象警報・注意報

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮	状況
高 ↑ 災害の危険性	警戒レベル5相当 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	予想される現状が特に異常であるため重大な災害の起こるおそれ著しく大きい状況
	警戒レベル4相当 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	重大な災害が起こるおそれ大きく危険な状況
	警戒レベル3相当 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	重大な災害が起こるおそれのある状況
	警戒レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	災害が起こるおそれのある状況

キキクルの確認方法

気象庁ホームページでは、大雨・浸水害・土砂災害・洪水災害それぞれのキキクルを随時見ることができます。

住所を登録しておけば、その地域が危険になったら自動的にスマートフォンに通知するキキクルの通知サービスもあります。



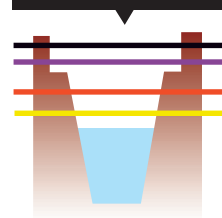
出典:キキクルの画像は気象庁ホームページより

水位観測所における設定水位による洪水予報

河川の増水や氾濫などに対する水防活動の判断や市民の避難行動の参考となるように、国土交通省と気象庁が共同して、加古川の水位または流量を示した洪水の予報を行っています。洪水予報は危険度に応じてレベル2氾濫注意報、レベル3氾濫警報、レベル4氾濫危険警報、レベル5氾濫特別警報/氾濫発生情報が発表され、加古川市は、国包基準観測所の水位をもとに設定した加古川下流が対象となります。

加古川の設定水位

氾濫が発生した場合、氾濫発生情報が発表されます。



氾濫発生水位 国包:7.78m、板波:5.88m	氾濫の発生する水位
氾濫危険水位 国包:4.7m、板波:5.0m	氾濫の起こるおそれがある水位
避難判断水位 国包:4.3m、板波:4.2m	住民の皆さんが避難を判断する水位
氾濫注意水位 国包:2.5m、板波:3.5m	氾濫に関する情報に注意する水位

極端な現象を伝える気象防災速報

注意報・警報等を補足する情報として、線状降水帯や竜巻等の極端な現象が発生または発生しつつある場合に「気象防災速報」が気象庁から発表されます。

気象防災速報	概要	市民がとるべき行動
気象防災速報 (記録的短時間大雨)	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときに発表されます。発表時は、すでに災害につながるような異常な雨が降っており、土砂災害や浸水害の危険度が急激に高まっている状況です。	キキクル、雨雲の動き、線状降水帯予測マップ等で危険度が高まっている地域を確認し、市の避難情報の発令状況や周囲の気象状況を確認のうえ、直ちに適切な避難行動をとりましょう。
気象防災速報 (線状降水帯発生)	線状降水帯が発生し、同じ場所で非常に激しい雨が降り続いているときに発表されます。発表時は、大雨災害の危険度が急激に高まり、すでに災害が発生している可能性もある非常に危険な状況です。	
気象防災速報 (線状降水帯直前予報)	数時間以内に線状降水帯が発生する可能性が高まったときに発表されます。発表時は、これから急激に雨が強まり、災害の危険度が一気に高まるおそれがある状況です。	
気象防災速報 (竜巻注意/竜巻目撃)	竜巻などの激しい突風が発生しやすい状況、または実際に目撃された場合に発表されます。発表時は、突風による建物被害や飛来物などの危険が差し迫っている状況です。	

避難情報と避難行動

市では、災害が発生するおそれがある場合には、緊急速報メールなどを通じて避難情報を発令します。避難情報が発令された際に、どのような状況が差し迫っているかを把握し、どのような行動をとらなければならないかを下の表から確認しましょう。

警戒レベルと避難情報		発令時の状況	市民がとるべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	災害発生又は切迫 (必ず発令される情報ではない)	命の危険 直ちに安全確保！ 災害が発生・切迫している状況です。避難場所等への避難が安全にできない場合は、自宅や近隣の建物で緊急的に安全を確保しましょう。

～警戒レベル4までに必ず避難！～

警戒レベル4	避難指示	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）してください。 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。 ※避難方法についてはP9、P18を確認してください。
警戒レベル3	高齢者等避難	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間を要する人（高齢の方、障がいのある方）は危険な場所から避難しましょう。 高齢者等以外の人も必要に応じて、普段の行動を見合わせたり、状況に応じて自主的に避難しましょう。
警戒レベル2	大雨・土砂災害・氾濫・高潮注意報	気象状況悪化	自らの避難行動を確認 加古川市総合防災マップ等で自らの避難行動を再確認しましょう。
警戒レベル1	早期注意情報	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める

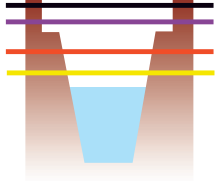
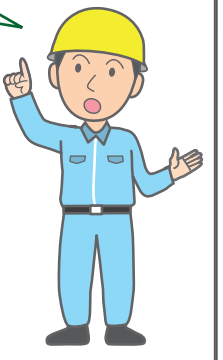


まとめ

大雨時の防災情報ととるべき行動の目安

大雨時には、様々な機関から防災情報が発表されます。発表される情報を正しく理解し、とるべき行動に結びつけることで、危険から身を守りましょう。

状況によっては、必ずしも下表の順番どおりに情報が発表されるとは限りません。テレビやインターネットなどで各種情報を確認し、早めの避難を心がけましょう。

大雨の情報	河川氾濫等の情報	土砂災害の情報	高潮の情報	避難情報	市民の皆さんのとるべき行動
雨量などをもとに 気象庁が発表 大雨による内水氾濫や大河川以外の外水氾濫の発生のおそれを知らせる情報です。 実際に危険度が高まっている場所は気象庁の大雨キキクルで確認できます。  キキクル	河川の水位を参考に国土交通省と気象庁（共同）、または兵庫県が発表 加古川(洪水予報河川)や法華山谷川、喜瀬川(水位周知河川)等の大きな河川に対する氾濫情報です。  氾濫が発生した場合、氾濫発生情報が発表されます。 - 氾濫発生水位 国包:7.78m、板波:5.88m 氾濫の発生する水位 - 氾濫危険水位 国包:4.7m、板波:5.0m 氾濫の起こるおそれがある水位 - 避難判断水位 国包:4.3m、板波:4.2m 住民の皆さんが避難を判断する水位 - 氾濫注意水位 国包:2.5m、板波:3.5m 氾濫に関する情報に注意する水位 加古川の設定水位	雨量などをもとに気象庁が発表 土砂災害の危険が高まったときに、避難指示を発令する際の判断や避難の参考になるよう発表されます。 実際に土砂災害の危険度が高まっている地域は、以下のサイトでご確認ください。  兵庫県 地域別土砂災害危険度	潮位をもとに 気象庁が発表（令和8年現在） 高潮による浸水被害の危険が高まったときに、避難指示を発令する際の判断や避難の参考になるよう発表されます。 兵庫県沿岸部の潮位は、以下のサイトでご確認ください。  兵庫県海の防災情報	気象情報、洪水予報などを参考に、加古川市が発令 災害が発生、または発生のおそれがある場合に、災害から市民の皆さんの生命を守るために、避難情報を発令します。 	避難は、「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です！ 避難は、自分で危険を感じ、避難が必要と判断した場合に行います。 災害による著しい危険、または被害が生じるおそれがある場合、避難情報が出されますが、<u>危険を感じたら、避難情報を待たずに避難をしましょう。</u> 
レベル2 大雨注意報 大雨による浸水害等が起こるおそれがある場合に発表	レベル2 氾濫注意報／氾濫注意情報 氾濫注意水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合に発表	レベル2 土砂災害注意報 大雨による土砂災害が起こるおそれがある場合に発表	レベル2 高潮注意報 高潮による重大な災害が起こるおそれがある場合に発表		- テレビ、ラジオ、携帯電話、パソコンなどから最新の気象情報を入手する。 - 避難場所の位置を確認する。
レベル3 大雨警報 大雨による重大な浸水害等が起こるおそれがある場合に発表	レベル3 氾濫警報／氾濫警戒情報 一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合に発表	レベル3 土砂災害警報 大雨による重大な土砂災害が起こるおそれがある場合に発表	レベル3 高潮警報 高潮による重大な災害が起こるおそれがある場合に発表	警戒レベル3 高齢者等避難 災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間を要する人（高齢の方、障がいのある方）は危険な場所から避難しましょう。高齢者等以外の人も必要に応じて、普段の行動を見合わせたり、状況に応じて自主的に避難しましょう。
レベル4 大雨危険警報 大雨による重大な浸水害等が起こるおそれが大きい危険な状況の場合に発表	レベル4 氾濫危険警報／氾濫危険情報 一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合に発表	レベル4 土砂災害危険警報 大雨による重大な土砂災害が起こるおそれが大きい危険な状況の場合に発表	レベル4 高潮危険警報 高潮による重大な災害が起こるおそれが大きい危険な状況の場合に発表	警戒レベル4 避難指示 災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）してください。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。 ※避難方法についてはP9、P18を確認してください。
レベル5 大雨特別警報 大雨による重大な浸水害等が切迫または既に発生しているおそれが大きく、身の安全の確保が必要な場合に発表	レベル5 氾濫特別警報／氾濫発生情報 氾濫が切迫または氾濫が発生した場合に発表	レベル5 土砂災害特別警報 大雨による重大な土砂災害が切迫または既に発生しているおそれが大きく、身の安全の確保が必要な場合に発表	レベル5 高潮特別警報 高潮による重大な浸水害等が切迫または既に発生しているおそれが大きく、身の安全の確保が必要な場合に発表	警戒レベル5 緊急安全確保 災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！ 災害が発生・切迫している状況です。避難場所等への避難が安全にできない場合は、自宅や近隣の建物で緊急的に安全を確保しましょう。

自宅からの避難を考えよう

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

お住まいの住居が戸建住宅であるか、集合住宅であるか、建物の階数が何階か、付近に土砂災害の区域があるかといったそれぞれの状況によって、とるべき行動は異なります。下のステップに従ってハザードマップを確認し、大雨時に自分がとるべき行動の目安を知り、いざという時に備えて平時から何ができるかを考えてみましょう。

とるべき行動
(凡 例)

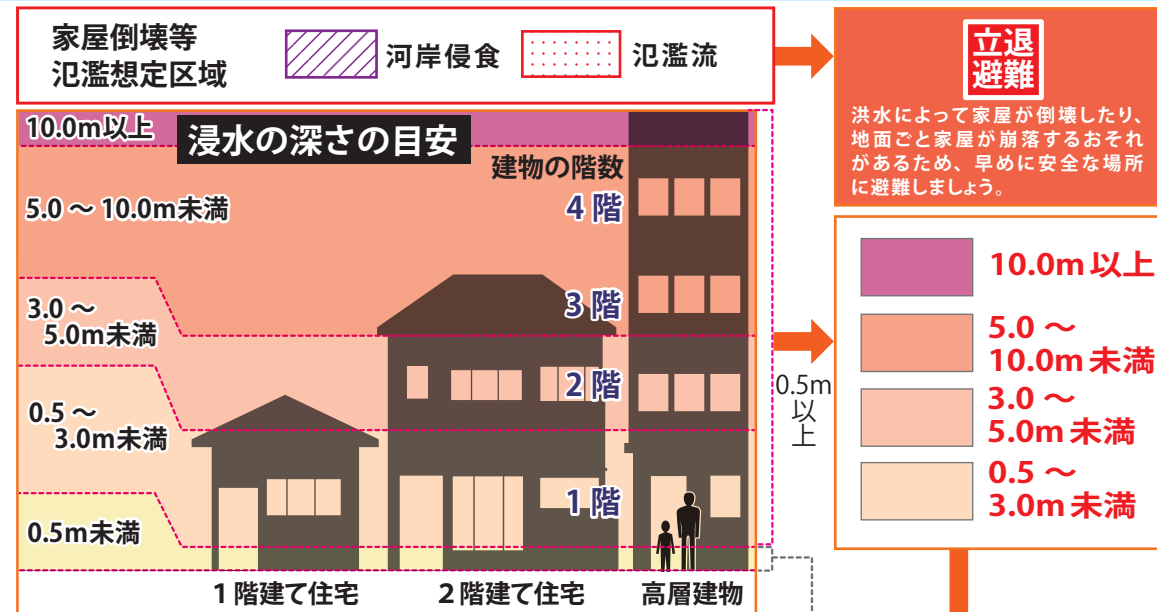
立退避難 河川などが氾濫する前に、早めに自宅以外の安全な場所へ事前避難を。

垂直避難 状況に応じて、建物の高層階に垂直避難を。

在宅避難 むやみな移動はかえって危険。大雨時は情報収集に努め、状況に応じて浸水対策を。

Step ① 33ページ以降の洪水・土砂災害ハザードマップで自宅の位置を確認し、周辺の「氾濫想定(家屋倒壊等氾濫想定区域)」や「浸水の深さ」などを確認しましょう。

自宅の位置は家屋流失のおそれがありますか? 「浸水の深さ」の着色の色は?



集合住宅に住んでいる場合

Step ② 戸建住宅でのとるべき行動の目安を知りましょう。

戸建住宅

お住まいの戸建住宅の階数と、地図上での着色(浸水の深さ)を確認し、とるべき行動の目安を知りましょう。

階 数	想定される浸水の深さ		
	0.5～3.0m未満 (1階部分が水没するおそれ)	3.0～5.0m未満 (2階部分まで水没するおそれ)	5.0m以上 (3階部分まで水没するおそれ)
3階建て	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難	立退避難
2階建て	立退避難 垂直避難	立退避難	立退避難
1階建て	立退避難	立退避難	立退避難

避難を考える上での留意事項

- ①ハザードマップでは、最悪の事態を想定しています。加古川、法華山谷川、喜瀬川などの氾濫が起こることを前提に、避難を考えてください。
- ②ここで示すのは、大雨時にとるべき行動の目安であり、絶対的なものではありません。身の危険を感じたら、命を守る行動をとってください。
- ③被害想定がない区域においても、絶対安全というわけではありません。もしもの場合を考えて行動してください。

Step ③ 集合住宅でのとるべき行動の目安を知りましょう。

集合住宅

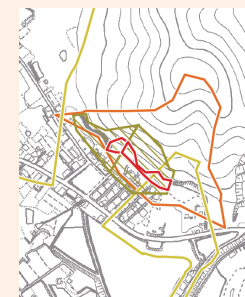
お住まいの集合住宅の階数と居住階、地図上での着色(浸水の深さ)を確認し、とるべき行動の目安を知りましょう。

※集合住宅の場合、いざという時には、共用部分の廊下などへ垂直避難することができます。あらかじめ話し合っておきましょう。

階 数	居住階	想定される浸水の深さ		
		0.5～3.0m未満 (1階部分が水没するおそれ)	3.0～5.0m未満 (2階部分まで水没するおそれ)	5.0m以上 (3階部分まで水没するおそれ)
4階建て以上	4階以上	在宅避難	在宅避難	在宅避難
	3階	在宅避難	在宅避難	立退避難 垂直避難
	2階	在宅避難	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難
	1階	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難
3階建て	3階	在宅避難	在宅避難	立退避難
	2階	在宅避難	立退避難 垂直避難	立退避難
	1階	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難	立退避難
2階建て	2階	在宅避難	立退避難	立退避難
	1階	立退避難 垂直避難	立退避難	立退避難
1階建て	1階	立退避難	立退避難	立退避難

Step ④ 土砂災害からの避難を考えましょう。

ハザードマップ上で自宅が土砂災害の区域内にあるかを確認する。



ある

建物の構造は?

木 造

鉄筋コンクリート構造などの頑丈な建物

ない

在宅避難

むやみな移動はかえって危険。大雨時は情報収集に努め、土砂災害に関する情報に注意を。

立退避難 土砂災害によって家屋が倒壊するおそれがあるため、早めに安全な場所に避難する必要があります。

立退避難 頑丈な建物であっても、土砂の流入が想定されるため、早めに安全な場所に避難する必要があります。

※ただし、逃げ遅れた場合は、山とは反対側の2階以上の部屋に移動するなど、屋内の安全な場所へ移動してください。

ハザードマップの見方

33ページから60ページでは、大きな縮尺の地図を用いて、加古川市の洪水・土砂災害ハザードマップを紹介します。

①自分の地域のページを見つけよう

31・32ページの索引図から、自宅や勤務先、学校など、暮らしている場所を探して、そのページを開きます。

②色が塗られているか、囲まれているか確認しよう

地図で自宅の位置などを確認できたら、その場所が色で塗られているか、色線で囲われているかを確認しましょう。

③どのような区域に指定されているか確認しよう

色で塗られていたり、色線で囲われている場合は、凡例の色と照らし合わせて、どのような区域に指定されているか確認しましょう。

④避難場所の位置を確認しよう

最寄りの避難場所を確認しましょう。指定緊急避難場所と指定避難所の双方の場所を確認しましょう。

⑤避難経路を確認しよう

自宅などから避難場所までの経路を地図で確認してみましょう。その際、浸水の深さの深い場所や土砂災害の区域を避けた経路を考えてみましょう。

指定避難所

災害発生後、その災害の危険性がなくなったのち、自宅などが被災した場合などに避難生活を送る場所です。
(指定避難所→77・78ページ)

指定緊急避難場所

災害の発生または災害のおそれがある場合、その被害から生命の安全確保を第一に、緊急的に避難する場所です。
(指定緊急避難場所→77・78ページ)

土砂災害の区域について

土砂災害が発生するおそれがある区域。種別や危険度によって色別に示しています。
(土砂災害について→11ページ)

- 土砂災害特別警戒区域 (土石流)
- 土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)
- 土砂災害警戒区域 (土石流)
- 土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)
- 山地災害**
 - 山腹崩壊危険区域
 - 崩壊土砂流出危険区域

防災重点ため池

大雨によってため池も漏水・越流・決壊などのおそれがあります。

土砂災害の見方

河川監視カメラ

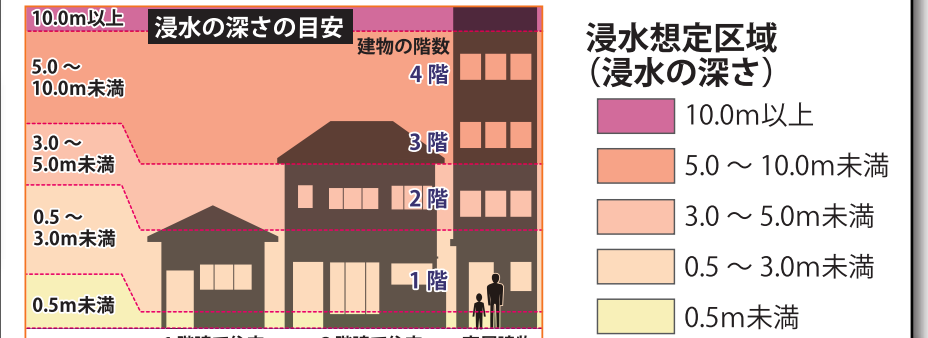
インターネット上で監視カメラの映像を公開しています。
(川の防災情報→79ページ)

水位観測所

インターネット上で河川の水位を公開しています。
(川の防災情報→79ページ)

浸水想定区域について

河川の氾濫によって浸水のおそれがある区域。想定最大規模降雨(概ね1000年に1回)において予想される最大の浸水の深さを色別に示しています。
(想定氾濫条件→8ページ) (浸水の深さと避難→27ページ)



耐震性貯水槽

地震などによる断水時に飲料水を供給するための施設を学校の地下に設置しています。

浸水実績

過去の大雨などによって浸水したところのある場所を示しています。

河岸侵食 (家屋倒壊等氾濫想定区域)

河川の激しい流れによって地面が削られ崩壊するおそれがある区域
(河岸侵食→6ページ)

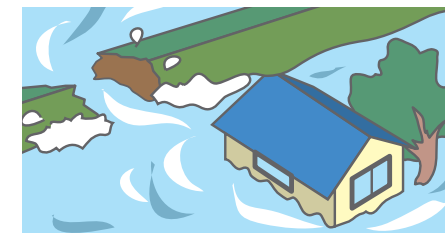


地下道等

道路や鉄道などの交差点部で、周辺の地面より低くなっているため豪雨時には冠水するおそれがあります。

氾濫流 (家屋倒壊等氾濫想定区域)

河川の氾濫流によって家屋が倒壊するおそれがある区域
(氾濫流→6ページ)



洪水災害の見方